

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-312649

(P2000-312649A)

(43)公開日 平成12年11月14日(2000. 11. 14)

(51)Int.Cl.⁷

A 4 7 J 43/28

識別記号

F I

A 4 7 J 43/28

テーマコード(参考)

4 B 0 5 3

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平11-123499

(22)出願日 平成11年4月30日(1999. 4. 30)

(71)出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72)発明者 椿 辰男

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

(74)代理人 100068157

弁理士 今岡 良夫 (外1名)

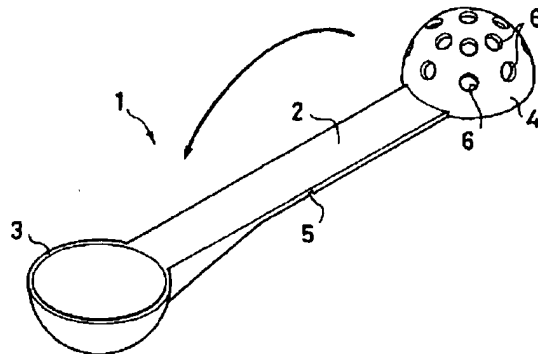
Fターム(参考) 4B053 AA03 CA04 CA13 CA30 CE02
CE10

(54)【発明の名称】 スプーン

(57)【要約】

【課題】味噌等の粘稠性物質の掬い取りから液中への溶解或いは分散を簡単に行え、しかも、掬い取りの分量を比較的一定量に分取することができ、更に、構造が簡単で容易に製造することができる取り出し具を提案する。

【解決手段】長手方向中央部に於いて折り畳み可能に形成した柄2の一方端に皿状部3を連設し、柄2の他方端に、皿状部3と反対向きで多数の透孔6を穿設した皿状の押圧部4を連設し、柄2を折り畳んだ状態で皿状部3内に押圧部4が嵌合する如く構成した。そして、皿状部3に掬い取った粘稠性物質を押圧部4で押圧し、その透孔6より押し出して容易に溶解或いは分散を行える如く構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】長手方向中央部に於いて折り畳み可能に形成した柄2の一方端に皿状部3を連設し、柄2の他方端に、皿状部3と反対向きで多数の透孔6を穿設した皿状の押圧部4を連設し、柄2を折り畳んだ状態で皿状部3内に押圧部4が嵌合する如く構成したことを特徴とするスプーン。

【請求項2】上記皿状部3が、その外周開口側端部に柄2の一方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状であり、上記押圧部4が、その外周開口側端部に柄2の他方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状である請求項1記載のスプーン。

【請求項3】皿状部8より側方に延びた柄9の先端より、斜め下方に折り返して皿状部8下方に至る弾性板10を一体に延設してなる本体Aと、皿状部底壁8a上に上下動可能に載置した押し上げ板13の下面より、皿状部底壁8aを上下動可能に貫通した連結杆14を下方へ突出させてなる押し上げ板部材Bとを備え、連結杆14下端部を弾性板10先端部に連結して弾性板10の押し上げに伴う押し上げ板13の押し上げが可能に構成してなることを特徴とするスプーン。

【請求項4】上記連結杆14下端部と弾性板10先端部との連結が、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向の回動が可能に嵌合係止した連結である請求項3記載のスプーン。

【請求項5】上記弾性板10の少なくとも基端部に薄肉部18を形成して、弾性板10を上方へ押し上げた際にその先端部の垂直上昇が可能に構成してなる請求項4記載のスプーン。

【請求項6】上記連結杆14下端部と弾性板10先端部との連結が、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向へのスライドが可能に且つ抜け出しを防止して嵌合係止した連結である請求項3記載のスプーン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はスプーンに関し、詳しくは味噌等の粘稠で液中に溶解或いは分散使用する物質用のスプーンに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、味噌等の粘稠性があり、水に溶かして使用する物質を使用する場合、杓子等の掬い取り用の道具により掬い取った後、水中で箸等で攪拌しながら溶解し、或いはそのまま水中に粘稠製物質の固まりとして落とした後、水全体を攪拌して溶解させる等の方法を採っている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前者では掬い取り用の道具である杓子の他に箸が必要となり、また、使用する味噌の分量と比較して杓子等は皿状部が一般に大きいので、目分量で皿状部の一部に味噌を

量り取り使用しており、その結果、経験が無いと味噌の分量を大きく誤る虞がある。また、後者の場合には液中に落とした固まりが全部溶解或いは分散したかどうかの判別が難しい。

【0004】本発明のこの様な点に鑑み、箸等の他の道具を必要とせずに粘稠製物質の掬い取りから液中への溶解或いは分散を簡単に行え、しかも、掬い取りの分量を比較的一定量に分取することができ、更に、構造が簡単で容易に製造することができる取り出し具を提案するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本請求項1発明のスプーンは上記課題を解決するため、長手方向中央部に於いて折り畳み可能に形成した柄2の一方端に皿状部3を連設し、柄2の他方端に、皿状部3と反対向きで多数の透孔6を穿設した皿状の押圧部4を連設し、柄2を折り畳んだ状態で皿状部3内に押圧部4が嵌合する如く構成したことを特徴とする。

【0006】また、請求項2発明のスプーンは、請求項1のスプーンに於いて、皿状部3が、その外周開口側端部に柄2の一方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状であり、押圧部4が、その外周開口側端部に柄2の他方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状である如く構成した。

【0007】また、請求項3発明のスプーンは、皿状部8より側方に延びた柄9の先端より、斜め下方に折り返して皿状部8下方に至る弾性板10を一体に延設してなる本体Aと、皿状部底壁8a上に上下動可能に載置した押し上げ板13の下面より、皿状部底壁8aを上下動可能に貫通した連結杆14を下方へ突出させてなる押し上げ板部材Bとを備え、連結杆14下端部を弾性板10先端部に連結して弾性板10の押し上げに伴う押し上げ板13の押し上げが可能に構成してなることを特徴とする。

【0008】また、本請求項4発明のスプーンは、請求項3発明のスプーンに於いて、連結杆14下端部と弾性板10先端部との連結が、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向の回動が可能に嵌合係止した連結である如く構成した。

【0009】また、請求項5発明のスプーンは、請求項3発明のスプーンに於いて、弾性板10の少なくとも基端部に薄肉部18を形成して、弾性板10を上方へ押し上げた際にその先端部の垂直上昇が可能に構成した。

【0010】また、請求項6発明のスプーンは、請求項3のスプーンに於いて、連結杆14下端部と弾性板10先端部との連結が、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向へのスライドが可能に且つ抜け出しを防止して嵌合係止した連結として構成した。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施例の形態を図面を参照して説明する。

【0012】本発明のスプーンは、味噌等の粘稠性があり、液中に溶解或いは分散等して使用する物質を取り扱う際に好適なもので、図1に示す実施例に於いてスプーン1は、柄2の一方端に皿状部3を、他方端に皿状の押圧部4をそれぞれ連設し、合成樹脂により一体に形成されたものである。

【0013】柄2は、長手方向中央部に於いて折り畳み可能に形成したもので、図示例では、長手方向中央部を横断する薄肉ヒンジ5を形成した平板状をなしている。

【0014】また、皿状部3は粘稠性物質等を掬い取るためのもので、柄2の一端に連設している。皿状部3の形状は図示例の如く中空の半球状である場合に限らず、種々の皿状のものが採用できる。図示例では、その外周開口側端部に柄2の一方端を中心に向かって一体に連結した中空の半球状をなし、その開口面が柄2の一面と略同一平面上に位置する如く連設している。

【0015】また、押圧部4は、皿状部3に掬い取った粘稠性物質等を溶解或いは分散させ易くするために設けたもので、柄2の他方端に皿状部3と反対向きに連設した皿状をなすとともに、多数の透孔6を穿設している。また、柄2を折り畳んだ状態で皿状部3内に嵌合する如く構成している。図示例では、外周面開口側端部に柄2の他方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状をなしている。

【0016】従って、皿状部3に掬い取った粘稠性物質等を押圧部4により押圧して各透孔6より押し出した状態で、液中で揺する等して徐々に粘稠性物質等を溶解或いは分散できる如く構成している。

【0017】この押圧部4の形状も図示例の如き中空半球状に限らず種々の皿形状を採用できるが、柄2を折り畳んだ際にその嵌合面が皿状部3の凹面と当接する如く構成すると良く、その為には皿状部3と相似形状の押圧部4とすると良く、掬い取った粘稠性物質等の溶解或いは分散をより迅速に効率良く行える。但し、押圧部の嵌合面が皿状部3の凹面に必ずしも当接しなくても、粘稠性物質の溶解或いは分散を行うことは当然できる。

【0018】上記の如きスプーン1は、例えば、粘稠性物質を皿状部3に掬い取った後、薄肉ヒンジ5部分から柄2を折り畳んでその押圧部4を皿状部3内に嵌合させる。その際、図2に示す如く、粘稠性物質7を皿状部3と押圧部4とで挟持し、皿状部3の各透孔6から粘稠性物質7を押し出し、液中での溶解或いは分散を行い易くしている。

【0019】図4乃至図6の実施例に於けるスプーン1は、本体Aと、押し上げ板部材Bとから構成している。

【0020】本体Aは、皿状部8より側方に延びた柄9の先端より、斜め下方に折り返して皿状部8下方に至る弾性板10を一体に延設してなる合成樹脂製のものである。皿状部8は、上記実施例同様その具体的形状は種々採用できるが、後述押し上げ板の上下動を考慮した場合

には、筒状のものが好ましく採用される。

【0021】図示例に於ける皿状部8は、底壁8a周縁部から周壁8bを起立した上端面開口の有底円筒状をなし、後述連結杆を挿通するための窓孔11を底壁8a中央部に穿設している。また、柄9は、皿状部8の外周上端部一部より側方に延設した平板状をなし、その両側に、下面と皿状部周壁8b外面とに亘る三角形の一对の補強板12を一体に掛け渡している。弾性板10は、柄9の先端から横U字状の屈曲部10aを介して傾斜下降する傾斜板部10bを延設し、傾斜板部10b先端より水平板部10cを延設して構成している。そして、弾性板10は屈曲部10aを中心に柄9側へ弾性的に回転する如く構成している。

【0022】押し上げ板部材Bは、皿状部8の底壁8a上に上下動可能に載置した押し上げ板13の下面より、皿状部底壁8aを上下動可能に貫通した連結杆14を下方へ突出させている。そして、連結杆14下端部を弾性板10先端部に連結して弾性板10の押し上げに伴う押し上げ板13の押し上げが可能に構成している。

【0023】図示例では、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向の回転が可能に嵌合係止している。更に具体的に言えば、弾性板10の先端部上面を横断して、上方に行くに従って前後方向に開く開口部下方に横長円柱状空間を延設した嵌合溝15を凹設し、また、連結杆14の下面より、嵌合溝15の横長円柱状空間に回転可能に嵌合する横長円柱状の嵌合突起16を板状部17を介して突設し、嵌合突起16を嵌合溝15に嵌合させて長手方向の回転が可能に嵌合係止している。従って、弾性板10が屈曲部10aを中心に回転する場合に、嵌合溝15部分が若干前方へ移動し、それに伴って連結杆14が後方へ傾く如く嵌合突起16が回転する如く構成している。連結杆14及び押し上げ板13の後方への傾倒は比較的小さいものであるため、皿状部8の窓孔11を連結杆14より若干大きめに、また、押し上げ板13の大きさを皿状部周壁8b内周より若干小さめに形成しておけば良い。

【0024】この様に構成されたスプーン1は、例えば、皿状部8内に粘稠性物質を掬い取った後、溶解或いは分散を目的とした液の中に皿状部8部分を挿入して弾性板10を徐々に押し上げつつ揺する等して漸次粘稠性物質を溶解或いは分散させる。粘稠性物質の溶解或いは分散後は弾性板10の押圧を解除すれば、自動的に押し上げ板部材Bを引き戻して元の状態に戻る。

【0025】図7に示す実施例は、図4に示す実施例に於いて、弾性板10の少なくとも基端部の肉厚を薄く形成して、弾性板10下端部を上方へ押し上げた際にその先端部が垂直上昇が可能に構成した例を示す。

【0026】図示例では、弾性板10の傾斜板部10bの基端部を薄肉に形成した薄肉部18を設けている。従って、弾性板10を押し上げた際に、皿状部周壁8bに案内されて真っ直ぐ上昇しようとする押し上げ板13により薄肉部18が独自に弾性変形し、その結果、押し上げ板13は真っ直

ぐに上昇する如く構成している。

【0027】尚、この様な薄肉部18を設けた場合には、押し上げ板13外周を皿状部周壁8b内周面とあまり隙間をあけない様に構成すると良く、また、連結杆14と弾性板10先端部との連結を、図4の実施例の如くしなくても、単に、回動不能に嵌着固定しても良い。

【0028】図8乃至図9に示す実施例は、図4に示す実施例に於いて、連結杆14下端部と弾性板10先端部との連結を、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向へのスライドが可能に且つ抜け出しを防止して嵌合係止する如く変更した場合の例である。

【0029】図示例では、弾性板10先端部に、上方が狭く、下方が広く、長手方向に長い切り溝19を、長手方向に沿って所定幅穿設し、また、連結杆14の下端部に棒状部20を介して球状の係合突起21を突設し、この係合突起21を切り溝19の上方より強制的に広い部分に嵌合させ、前後方向の移動が可能に且つ抜け出しを防止して嵌合係止している。その他の構成は図4の実施例と同様である。

【0030】この場合も、弾性板10を押し上げれば、押し上げ板13は皿状部周壁8bに案内されて上方へ移行し、その際、係合突起21が切り溝19に沿って後方へ移行していく如く構成している。

【0031】

【発明の効果】以上説明した如く本発明のスプーンは、既述構成としたことにより、粘稠性物質を掬い上げて目的とする液体に溶解或いは分散させることを迅速にきわめて容易に行えるものである。また、皿状部により略一定量の粘稠性物質を分取することができる。更に、構造が簡単で合成樹脂により形成することかできるため、安価に製造できる利点も兼ね備える。

【0032】請求項1発明のスプーンは、長手方向中央部に於いて折り畳み可能に形成した柄2の一方端に皿状部3を連設し、柄2の他方端に、皿状部3と反対向きで多数の透孔6を穿設した皿状の押圧部4を連設し、柄2を折り畳んだ状態で皿状部3内に押圧部4が嵌合する如く構成したので、皿状部3に掬い取った粘稠性物質を多数の透孔6から押し出して表面積を大きくした状態で溶解或いは分散を行え、迅速且つ容易な粘稠性物質等の溶解等を行えるものである。

【0033】また、請求項2発明のスプーンは、請求項1発明のスプーンに於いて、皿状部3を、その外周開口側端部に柄2の一方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状に、押圧部4を、その外周開口面側端部に柄2の他方端を中心に向かって一体に連結した中空半球状に、それぞれ構成したので、皿状部3内への押圧部4の嵌合を隙間なく行い易く、従って、皿状部3と押圧部4との間に存在する粘稠性物質等をその間に残ることなく効率良く押し出すことができるものである。

【0034】また、請求項3発明のスプーンは、皿状部8より側方に延びた柄9の先端より、斜め下方に折り返して皿状部8下方に至る弾性板10を一体に延設してなる本体Aと、皿状部底壁8a上に上下動可能に載置した押し上げ板13の下面より、皿状部底壁8aを上下動可能に貫通した連結杆14を下方へ突出させてなる押し上げ板部材Bとを備え、連結杆14下端部を弾性板10先端部に連結して弾性板10の押し上げに伴う押し上げ板13の押し上げが可能に構成しているので、皿状部8に掬い取った粘稠性物質等を、目的とする液体中で弾性板10を押し上げつつ揺する等することにより少しずつ溶解等を行うことができ、その結果、迅速且つ容易な粘稠性物質の溶解等を行えるものである。

【0035】また、請求項4発明のスプーンは、請求項3発明のスプーンに於いて、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向の回動が可能に嵌合係止したので、弾性板10の押し上げの際に押し上げ板部材Bが無理なく上昇し、取り扱い操作がより簡単となる。

【0036】また、請求項5発明のスプーンは、請求項3発明のスプーンに於いて、弾性板10の少なくとも基端部に薄肉部18を形成して、弾性板10を上方へ押し上げた際にその先端部の垂直上昇が可能に構成したので、同様に無理のない押し上げ板部材Bの上昇が行え、取り扱い操作がより簡単となる。

【0037】更に、請求項6発明のスプーンでは、請求項3発明のスプーンに於いて、連結杆14下端部を弾性板10に対して長手方向へのスライドが可能に且つ抜け出しを防止して嵌合係止したので、同様に無理のない押し上げ板部材Bの上昇が行え、取り扱い操作がより簡単となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図2】同実施例の使用状態を示す断面図である。

【図3】同実施例の使用状態を示す斜視図である。

【図4】本発明の他の実施例を示す斜視図である。

【図5】同実施例の縦断面図である。

【図6】同実施例の連結杆嵌合前の要部拡大斜視図である。

【図7】本発明の更に他の実施例を示す縦断面図である。

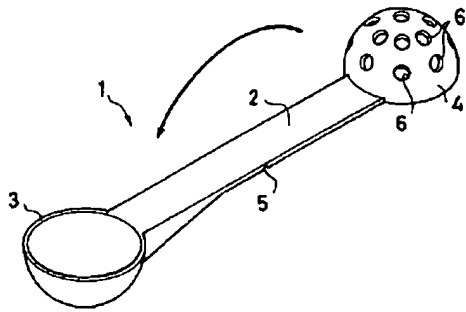
【図8】本発明の更に他の実施例を示す縦断面図である。

【図9】同実施例の連結杆嵌合前の要部拡大斜視図である。

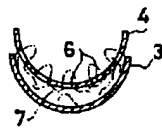
【符号の説明】

2, 9…柄, 3, 8…皿状部, 4…押圧部, 6…透孔, 8a…底壁, 8b…周壁, 10…弾性板, 13…押し上げ板, 14…連結杆, A…本体, B…押し上げ板部材

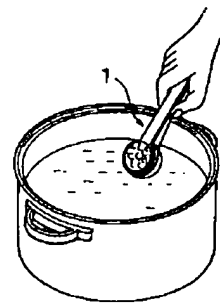
【図1】



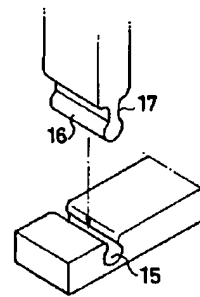
【図2】



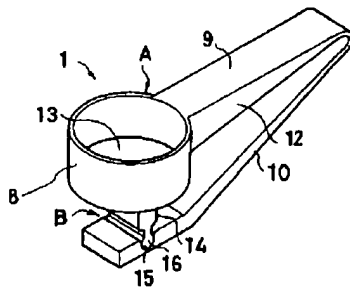
【図3】



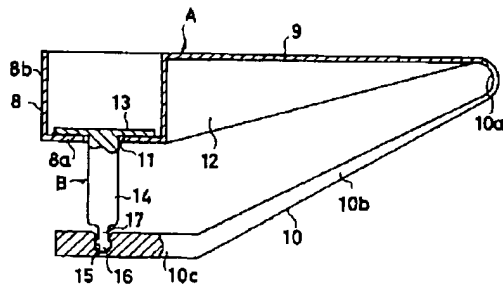
【図6】



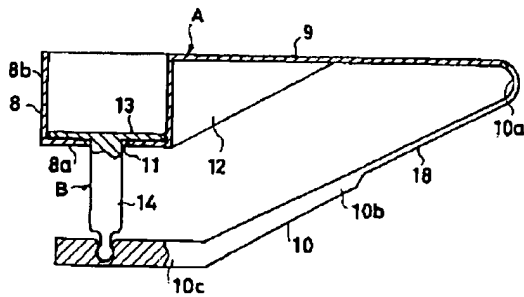
【図4】



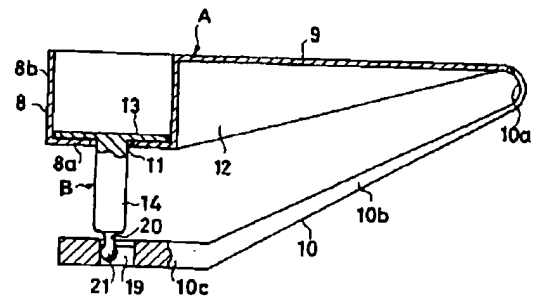
【図5】



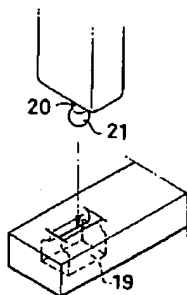
【図7】



【図8】



【図9】



DERWENT-ACC-NO: -2001-054242

DERWENT-WEEK: 200107

COPYRIGHT 2004 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Spoon for scooping viscous stuff, has plate like portion and pressure portion formed on edges of foldable shank such that pressure portion press-fit in plate like portion when shank is folded

PATENT-ASSIGNEE: YOSHINO KOGYOSHO KK[YOSK]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0123499 (April 30, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	
MAIN-IPC				
JP 2000312649 A	November 14, 2000	N/A	005	A47J
043/28				

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP2000312649A	N/A	1999JP-0123499	April 30, 1999

INT-CL (IPC): A47J043/28

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000312649A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The spoon (1) contains plate like portion (3) contacted to one end of shank (2) that is foldably formed along longitudinal direction. A pressure portion (4) with multiple pores (6), is contacted to the end of shank. The pressure portion press-fit in plate like portion when shank is folded.

USE - Used for scooping of viscous stuff.

ADVANTAGE - Easily performs the scooping of viscous stuff and enables dispersing of large amount of viscous materials from press portion to plate shaped portion.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the isometric view of spoon.

Spoon 1

Shank 2

Portion 3

Pressure portion 4

Pores 6

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/9

TITLE-TERMS: SPOON SCOOP VISCOSITY STUFF PLATE PORTION PRESSURE PORTION FORMING
EDGE FOLD SHANK PRESSURE PORTION PRESS FIT PLATE PORTION SHANK FOLD

DERWENT-CLASS: P28

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2001-041748